

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

- ・回収率 全学年で337通の回答があった。回収率は92.0%である。
- ・生徒の教育活動に対する評価「授業の内容はよくわかる。」88%、「学校全体で部活動は充実している。」87%、「友達と学校で活動するのは楽しい」94% 「毎日の学校生活が楽しい」86%等と全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。
- ・「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」73%と前年度より24%激増している。「進路に関する情報を十分提供してくれる。」79% と21パーセント肯定的回答が昨年より激増した。「先生は誰に対しても公平である。」68%と肯定的回答が16%増加した。さらに、一人一人の話にしつかり耳を傾け、生徒個々を見ていく努力を希望する。
- ・「自分には良いところがある」84%、わからない率16%となっており、昨年度よりは肯定的回答が増えているが、上記と合わせ、学校行事や地域活動等 色々な面に目を向け、学習面に限らず何か良いところがあると前向きに考えられるよう働きかけ、わからない率を減らし、肯定的評価75%以上を目指す。
- ・学び舎の活動については、否定的回答が66%と増加しているので、どのように生徒と児童が交流する機会をもたせるかが課題である。

II. 保護者のアンケートより

- ・回収率 全学年で304通の回答があった。今回は336通のアンケートを配布したので、回収率は90%、昨年度より14.5%上がっている。
- ・全体としては肯定的回答が多くなり、各項目で肯定的回答の割合が減少している設問があり、わからない率も増加しているものがある。
- ・キャリア教育については、「親身になって進路の相談にのっている」72%と前年度より2%肯定的評価が減少している。
- ・部活動については、「実施回数や時間は適切である」81%と昨年よりさらに11%増加している。
- ・学校行事については、高い関心と満足度が顕著に示されている。学校側の課題も理解できるが、なんとか現状を維持してほしい。
- ・通知表評価については、肯定的評価が75%と昨年度より6%上がっている。学年が進行するにつれ肯定的回答が減少し、否定的回答が増加している。 学力や相談のしやすさも合わせ、保護者との信頼関係を築き、理解してもらえるよう説明していくことを望む。
- ・地域との連携については、わからない率がほとんどの設問で増加している。どのように理解度を向上させていくかが課題である。

III. 地域の方のアンケートより

- ・回収率 学校協議会委員(出張所、消防、町会長、青少年委員)など65名にアンケートを送付し、37名から回答をいただいた。回収率は57%と昨年度より 6%減少した。
- ・わからない率について、ほとんどの項目で増加しており、20%以上の回答が10項目ある。また、地域との連携・広報活動については、他の項目に比べ、まだ肯定的回答が少ないので、さらなる工夫改善に取り組み向上を目指してほしい。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

- ・「学校の重点目標が明確である」という評価項目では、肯定的回答が保護者において69%、わからない率21%、地域において83%で16%増である。 教職員においては100%であり、すべて肯定的評価となっている。
- ・学校の重点目標について、その目的も含め学校によりや学年により等様々な方法で引き続き保護者に周知していく努力を行い共通理解をさらに深めていく必要がある。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目では、保護者の肯定的回答が67%で昨年より7%増加した。地域の肯定的回答は57%で3%減である。
- ・学校協議会の項目では、保護者の肯定的回答が56%で昨年より3%減少、わからない率も28パーセントと1%減少。地域の肯定的評回答は55%で昨年より4%増加、わからない率は42%で昨年より5%と増加している。来年度は内容の見直し・検討とともに、保護者への周知方法の改善を望む。
- ・PTA活動については、活動の見直し・スリム化を行っている中、教職員からは今年度も大変良好な評価を得ている。一部だけに負担が偏ることなく、引き続き保護者の学校への協力体制が継続的に行われることを望む。
- ・学校は地域の活動や行事によく協力しているの項目では、保護者の肯定的回答が81%で昨年より10%増、地域では77%で7%増と昨年度より向上している。引き続き、学校や生徒と地域との関わり方を見直し、改善に向けて検討することを望む。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・学習指導において生徒の「授業の内容がよく理解できる」の項目は、86%と数値目標を超えており、さらに維持・向上させていく努力を望む。
- ・教科「日本語」の学校自己評価は、肯定的評価の割合は昨年度と同等である。「日本語」についての共通認識をはかるとともに、充実について工夫・改善、指導体制の研修を、引き続き推進していくことをお願いする。
- ・生活指導においては、保護者・生徒・地域すべてのアンケートで、肯定的回答が昨年度の数値より上昇している。学校の生活指導方針や生徒の学校での様子を様々な方法で家庭に伝えていく、教職員内で学校のきまりやルール、対応の仕方などの確認と共に共通理解を図ってほしい。
- ・道徳教育においては、学校自己評価の中で、生徒の実態をふまえた指導について、否定的評価が増加した。指導計画の見直しと指導改善をお願いする。
- ・学校行事においては、生徒の自己肯定感が高まるよう、今後も事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力をお願いする。
- ・相談活動においては、肯定的回答が増加しているので、あいあいタイムを継続し、今後も生徒・保護者と学校との信頼関係が保たれていくことを望む。 また、保健室・カウンセラーとの連携をさらに強め、教室に行けない生徒たちへの支援を引き続きお願いしたい。
- ・部活動において、教育委員会からの部活動休業日指示等、保護者の要望と相反し、活動には困難を伴うが、工夫改善を行い、要望にそえるようお願いする。
- ・先生について、「先生に指導されたことは納得できる」は、肯定的回答が80%と微増、「先生は、誰に対しても公平である」の肯定的回答が62%と9%増加しているが、さらに教職員と生徒の信頼関係を再構築していく努力をお願いする。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- ・おおむね良好な評価である。
- ・保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である校長のリーダーシップのもと、教職員が協力して教育活動に励んでいる様子について、保護者 や地域にきちんと伝わっていることがうかがえるので、継続してほしい。

V. 教育環境の整備について

- ・全体的に、訓練や本校施設の安全性について、肯定的回答が昨年度と同等であった。新校舎の安全性について、引き続き保護者や地域へ積極的に情報提供し、周知と理解を徹底してほしい。
- ・各種訓練については、実態に即した内容の見直しを行い、適切に行われる事を望む。

VI. 学校生活全般について

- ・保護者アンケート「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」82%、独自項目「友達と学校で活動することは楽しい」92%と、生徒・保護者ともに充足度がかなり高いといえる。
- ・一方生徒アンケート「毎日の学校生活が楽しい」82%、「深沢中が好きである」78%と肯定的回答がおよそ7%昨年より増加している。
- ・生徒の自己肯定感が高められるよう、心の教育を推進していくことをお願いする。

VII. 数値目標について

①授業の内容はよく理解できると思う生徒の割合80%以上を目指す。	<評価結果	85%
②友達と学校で活動することは楽しいという生徒の割合85%以上を目指す。	<評価結果	92%
③生徒が地域の活動や行事によく協力しているという地域方の評価80%以上を目指す	>評価結果	77%
・③だけが数値目標を達成できなかった。(昨年度よりは12%上昇)		
・①、②の継続した指導体制、③の方法整備が望まれる。		

VIII. 「学び舎」の目標について（昨年度より独自項目生徒アンケート実施）

- ①自分にはよいところがあると思いますか。80%以上 >評価結果 71%
- ②友達と学校で活動することは楽しい。85%以上 <評価結果 92%
- ③自分が住んでいる地域は好きである。80%以上 <評価結果 82%
- ・平成29年度から平成30年度は数値目標を変更したために比較しにくくなっている。生徒の実態に合わせ、数値目標設定の検討を学び舎で行うことが必要である。昨年度との比較では、「①の自分にはよいところがあると思いますか。」5%増、「②友達と学校で活動することは楽しい。」昨年と同じ、「③自分が住んでいる地域は好きである。」3%増である。①は発達段階を考慮しても低い値であり、次年度への課題である。この報告書でも何度もふれているが、生徒が自己肯定感を高められるよう、学習面だけでなく、学校行事や部活動、地域行事など様々な場面で活躍できる機会を作り、生徒が前向きになれる指導を強くお願いしたい。

3 学校自己評価について

I. 学校自己評価の方法は適切であるか

- ・適切に実施されたといえる。

II. 学校自己評価の結果の内容は適切であるか

- ・おおむね適切な内容といえる。

III. 学校自己評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

もう一步踏み込んだ分析がなされるとより具体的な改善方策がたてられると思われる。各行事などの反省点を次年度につなげるため、学年別・担当部門別の検討事項も記録し、次年度へつなげていただきたい。保護者や地域からの希望や認識とのズレについて、理解を得られるよう説明する機会を作ることをお願いしたい。

4 学校の課題及び学校への提言

- アンケート集計結果より、全体的には今年度も良い評価結果である。今後も継続努力し、さらなる向上を目指(推進)していくこと。
- 地域との連携においては、生徒の地域行事への参加やボランティア活動を通して未来の担い手としての意識を育て行くこと。
- 情報発信においては、学校だよりやホームページの工夫により、生徒の活躍の様子が地域や関係機関に伝わるようさらなる改善を行うこと。
- 学習指導において指導についてはおおむね良好な評価を得ているが、評価については、生徒・保護者へ評価の基準を丁寧に示し、理解ができるように努めていくこと。
- 教科「日本語」においては、今後も共通理解をもち、研修等を通して指導の工夫・改善を強力に推し進めさらなる充実を図っていくこと。
- 生活指導においては、おおむね良好な評価を得ているので、引き続き指導方針や指導体制を明確にし、学校全体で取り組めるようにすること。
- 学校行事においては、生徒の主体的な活動によって、高い教育効果をもたらしていて、生徒・保護者の満足度も高い。今後も引き続き生徒の充実した活動となるよう取り組みを継続すること。
- 相談活動においては、保健室・スクールカウンセラーと連携し、今後も生徒の心の変化を捉え、早期に対応する体制を進め、常に生徒が安心して学校生活を過ごせるようにしていくこと。
- 進路指導においては、キャリア教育(進路指導)=進学指導でなく、生徒一人一人が将来にわたり職業人として生きていく力を身に付けていく指導であることを、今後も生徒・保護者に様々な機会をとらえて広報・周知していくこと。また、進路の情報提供にあたっては、保護者のニーズにできるだけ応えていく努力をすること。
- 部活動等においては、部活動に係る活動方針にそって指導内容の工夫などにより、質の改善を行っていくこと。
- 学校の安全性、安全への配慮等は、さらに向上できるよう課題に取り組む。今後も保護者へ様々な機会をとらえて積極的にアピールしていくこと。
- 大規模災害の対応について、学校ができること、各家庭がやらなければならないことを明確にし、保護者や地域に周知し理解をさらに深めていくこと。
- 一人一人の生徒が、学び舎の教育目標にある「自分大好き」と思えるように、校長の学校経営方針にある、「夢」を生徒に持たせ、自己実現ができる機会を設定・実践し、自己有用感、自己肯定感等を味わう経験を多く持たせるよう、改善・努力を行っていくこと。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び学校自己評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。

重点目標の数値を3項目中2項目達成したことは、学校の努力の成果であるといえる。重点目標についての周知、地域との連携についての課題については、生徒の自己肯定感向上にもつながるため、来年度も重要なポイントと思われる。厳しい授業時間の中、学校行事に対する生徒の満足度を高いままで維持し、「学校生活を楽しく過ごしている」とする結果が保護者86%、「友達と学校で活動することが楽しい」生徒92%と高い肯定的評価を得られたことは大変評価できる。

回収率を含め、高い水準を維持できたのは、校長が強力にリーダーシップを発揮し、教職員が一体となって努力してきた結果であるといえる。学校と生徒・保護者との信頼関係を深め、今後も校長のリーダーシップのもと教職員が一体となり一人一人の生徒のために最善を尽くしていくことをお願いする。

令和元年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会

委員長	井坂 聰	(事務局)	新妻 弘樹
委 員	青柳 義博		佐藤 哲
	菅田 輝代志		山口 拓也
	谷岡 美貴		森岡 美奈子